

台灣日本語文學報

22

【特別寄稿】	
沖田知子	ことば学への招待…………… 1
仁田義雄	日本語文の意味・統語構造への一つのモデル…………… 21
【論文】	
小林由紀	大江健三郎の最新作『おかしな二人組スウード・カップル』 —三部作として読む試み—…………… 41
黄如萍	芥川龍之介と志賀直哉—「お律と子等と」における「或る男、其姉の死」の摂取—…………… 67
廖秀娟	中島敦「虎狩」論…………… 91
蔡宜静	『銀河鉄道の夜』のキリスト教徒の話に着目して—『天路歷程』との比較研究を介して—…………… 111
陳玫君	30年代の台湾文学における「東京」イメージ —台湾人作家の作品を中心として—…………… 137
葉漢鰲	昔話「桃太郎」の原像—雉・鶏の民俗信仰論—…………… 161
趙順文	共時的な多義ネットワークの試案 —日中同形語植物表現を中心に—…………… 187
劉怡伶	動詞「したがう」「ともなう」の文法化…………… 213
黄愛玲	話し手の概念領域から見る「は」と「が」の使い分け…………… 239
黄淑妙	台湾人学習者の「てくる」「ていく」に関する誤用分析 —日本語作文コーパス利用を中心に—…………… 259
関口要	台湾人日本語学習者の意見文における語句の繰り返し形式 —日本語母語話者との比較を通して—…………… 283
李宗禾	『台湾教科用書国民読本』における国語教科書からの継承の様相… 309
甲斐雄一郎	『廣東語會話篇（1916年再版）』の同字異注について —声母を中心に—…………… 335
【実践報告】	
林雪星	教室のなかで読む「蠅」について…………… 359
陳淑娟	作文における漢語語彙の習得についての考察 —LARP at SCUのデータに基づく事例研究—…………… 379
林長河	応用日本語学科のカリキュラムをめぐる諸問題 —銘傳大学を例に—…………… 405
盧月珠	LARP at SCUにおける状態副詞の習得についての考察 —初級から中級までの作文データを調査対象に—…………… 431
葉淑華	インターネットを利用した学習者の学習ストラテジーを考察する —作文授業を例に—…………… 457

2007年12月
台灣日本語文學會

日中同形 詞多義展開圖建構之 試案

趙順文

台灣大學免評估教授

摘要

本文主要透過〈苗〉〈節〉〈根〉〈土〉〈木〉〈材〉〈線〉等日中同形詞的植物表現，嘗試建構共時性多義展開圖之方法論。

共時性多義展開圖之描述，首先應有明確的基準按序提出 1) 核心義之設定、2) 意義之認定、3) 意義關係之明示。本文針對於第 1 項，主要運用認知語言學上的典型理論。第 2 項則檢討國廣 (2006)，確立多義詞之衍生主要在於隱喻、換喻與提喻三種比喻理論。第 3 項意義關係之探討，涉及隱喻、換喻與提喻之下位分類等複雜問題，雖於文中描述，但仍未盡詳，有待今後的補正。

在此三基準下，雖不完整，但綜觀過程之描述，初步所獲結論之日中同形詞共時性多義展開圖之輪廓已大致浮現。

關鍵詞：核心義 隱喻 換喻 提喻 多義展開圖

**A Tentative Polysemic Network of Japanese-Chinese
Homonym: A Case Study of Expressions related to Plants**

Tio, Sun-Bun

Professor, National Taiwan University

Abstract

This study investigates the methodology of polysemic network, through the examples specifically from the expressions related to plants in Japanese-Chinese homonym, such as seedling < 苗 >, node < 節 >, root < 根 >, soil < 土 >, wood < 木 >, timber < 材 > and thread < 線 >.

When it comes to describing polysemic network, it is necessary to present the following three criteria, "the specification of core meaning," "the recognition of meaning" and "the relationship of core meaning and taxonomy." In cognitive linguistics, the specification of core meaning has been widely discussed from prototype. Besides, the recognition of meaning is chiefly investigated from various perspectives, such as metaphor, metonymy and synecdoche (Kunihiro 2006). However, the relationship of core meaning and taxonomy is a remaining issue that is significant but not widely explored yet. Therefore, this study tentatively investigates the relationship of core meaning and taxonomy.

Key words: Core Meaning, Metaphor, Metonymy, Synecdoche,
Polysemic Network

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

共時的な多義ネットワークの試案

一日中同形語植物表現を中心に―

趙順文

台湾大学日本語文学科免評価教授

要旨

本稿は＜苗＞＜節＞＜根＞＜土＞＜木＞＜材＞＜線＞などの植物表現を中心に、日中同形語の共時的な多義ネットワークを考察し、その方法論の試案を提起することを目的とする。

共時的な多義ネットワークを記述するにあたって、明確な基準に基づいて、「核心義の設定」、「意義の認定」とその下位類の「意義関係の明示」を提示しなければならない。「核心義の設定」に関しては認知言語学のプロタイプ理論に則った基準を立てられるのに対して、「意義の認定」に関しては主に国広（2006）を検討しながら、核心義を起点とするメタファーかメトニミーかシネクドキシかのいずれかの基準を主張した。にもかかわらず、「意義関係の明示」に関しては必要でかつ十分な下位類の意義展開パタンの探求は不十分ながら、その一つの試みだった。これはどうしても避けて通れない課題として今後の研究にまつこととしたい。

キーワード：核心義　メタファー　メトニミー　シネクドキシ
多義ネットワーク

日中同形語多義ネットワークの試案

—植物表現を中心に—

趙順文

台湾大学日本語文学科免評估教授

1. 序

本稿は＜苗＞＜節＞＜根＞＜土＞＜木＞＜材＞＜線＞などの植物表現を中心に、日中同形語の共時的な多義ネットワークを考察し、その方法論を提起することを目的とする。既存の構造言語学ないし生成言語学では、言語表現の構造は意味とは、ほとんど無関係の形式的規則体系によって決められるのに対して、認知言語学では、言語表現の構造はある場面をいかに概念化するかに関与するという認知を直接反映するものと考えられる。ここ数年、認知言語学の研究が著しい発展を遂げ、今日ではその研究成果を、実践面において新しい試みの辞書編纂に適用した *The New Oxford Dictionary of English* (1998) は周知の業績である。Wittgenstein の“家族相似理論”、Rosch の“プロトタイプ理論”と Labov の“変異理論”と Goldberg の“構文文法論”ないし Lakoff・Langacker のメタファーとメトニミーに関する様々な理論が提起されるなど、百家争鳴の様相を呈している。

本稿では上述の諸理論を吟味した上で、特に比喻理論の本質とされるメタファー、メトニミーとシネクドキの三つの概念を精密化し、多義ネットワークの構造解明への適用を試みる。

2. 先行研究と問題点

Lakoff と Langacker らのメタファーの研究を土台に、佐藤 (1978) は大量の実例に基づいて、メトニミーは現実世界の全体と部分との関係であるのに対して、シネクドキは概念世界の全体と部分との関係であるとして、曖昧な両者の区別をはっきりさせた。それがきっかけで、Pierce(1931-1958)、中村 (1991)、楠見 (1995)、瀬戸 (1997)、野内 (2002) らの研究はさらにこれを強固にした。例えば、Peirce

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

(1931-1958)の記号論ではメトニミーの指標記号 symbol は現実世界、シネクドキの象徴記号 index は概念世界、メタファーの類似記号 icon は実世界と概念世界との間に位置して、三者がお互いに三角関係をなすとしている。

もっとも菅野 (2003) と初山 (2004) は伝統的な用法を遵守して、依然としてシネクドキをメトニミーの下位分類としている。とはいえ、メタファーとメトニミーに加え、シネクドキを意義区分とすることは通時的にも共時的にもしっかりした根拠を伴っているので、本稿ではシネクドキを独立した地位を与える。思うに、多義語の意義の切り分けの基準として、メタファーは類似関係、メトニミーは隣接関係、シネクドキは包摂関係を意義展開の基盤とする方法論を多義ネットワークで分析して探求することは有効であろう。これらの3種の転義パターンはよく引用される次の例で説明される。

メタファー：月見うどん（卵黄の眺めと月見が類似関係にある）

メトニミー：狐うどん（狐と好物の油揚げが隣接関係にある）

シネクドキ：親子丼（親子と、鶏および玉子の親子が包摂関係にある）

一方、森田 (1994) は多義語の解釈を①本義（原義）、②転義（派生義）、③抽象化と④比喩化などの四種に求めている。①の本義（原義）はともかくとして、②転義（派生義）はメタファーかメトニミーかシネクドキのいずれかによって敷衍されよう。また③抽象化はメタファーの下位類の特性類似に相当するもの考えられる。もっとも④比喩化に関して同じ比喩理論で解釈がつく。結局、森田説は比喩理論で掬いきれるだろう。

実際、多義語を含む意味論の研究に従事し、多大の業績をあげた国広 (2006) は多義派生の型を次のような 13 種類に分けている。

表 I 国広 (2006) による多義派生の型

	型	説明
①	心的視点の位置	「先」を例に、話し手の視点によって、〈過去〉か〈未来〉の意味が解釈。メタファーの下位類の〔特性類似〕に関連づけられる。

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

②	アスペクト多義	「この料理は美味しい」の「料理」は結果、「彼は料理が上手です」の「料理」はプロセスを意味する。両者は時間的なメトニミーの下位類の「結果でプロセス」 ¹ に関連付けられる。
③	焦点化（転移・部分転移）	「この箱は桐でできている」の「桐」は部分、本来の桐の木を意味する「桐」は全体を意味する。両者はメトニミーの下位類の「全体で部分」 ² に関連付けられる。
④	具象化転用	「握る」は結果の寿司「握り」、「魚を売る」は行為者の「魚売り」、「鉄む」は道具の「鉄み」を意味し、それぞれ時間的なメトニミーの下位類の「プロセスで結果」 ³ 、「プロセスで行為者」 ⁴ と「プロセスで道具」 ⁵ に関連付けられる。
⑤	比喩的転用	「山すそ」は着物の「すそ」から派生したものと考えられる。両者はメタファーの下位類の「形態類似」 ⁶ に関連づけられる。
⑥	提喩	「ご飯」は概念世界の類の食事の意味を、概念世界の類の「兵隊」は一人の「兵隊」の意味を派生させる。前者は「種で類」 ⁷ 、後者は「類で種」 ⁸ に関連付けられており、典型的シネクドキと言える。
⑦	換喩	「手を洗う」と「排泄行為を行う」は時間的なメトニミーの下位類の「部分で全体」に関連づけられる。
⑧	時空間推義	「夜の底が白くなった」の「夜」の時間と「底」の「空間」はメタファーの下位類の「特性類似」に関連づけられる。
⑨	推論的派生義	「人が横になる」を核心義とする「寝る」と「眠る」はメタファーの下位類の「形態類似」に関連づけられる。
⑩	意味格多義	「牛の乳をしぼる」と「手拭いをしぼる」はメトニミーの下位類の

¹ 例えば mark の「評価点」の意義と「評価する」の意義は時間的なメトニミーの下位類の「結果でプロセス」に関連づけられる。

² 例えば eye の「目」の意義と「瞳」の意義は空間的なメトニミーの下位類の「全体で部分」に関連づけられる。

³ 例えば purchase の「購入する」の意義と「購入品」の意義は時間的なメトニミーの下位類の「プロセスで結果」に関連づけられる。

⁴ 例えば guard の「見張る」の意義と「見張る人」の意義は時間的なメトニミーの下位類の「プロセスで行為者」に関連づけられる。

⁵ 例えば wrap の「包む」の意義と「ラップ」の意義は時間的なメトニミーの下位類の「プロセスで道具」に関連づけられる。

⁶ 例えば neck の「首」の意義と「瓶の首」の意義はメタファーの下位類の「形態類似」に関連づけられる。

⁷ 例えば ship の「荷物を船で送る」の意義と「荷物を送る」の意義はシネクドキの下位類の「種で類」に関連づけられる。

⁸ 例えば drink の「飲み物」の意義と「酒」の意義はシネクドキの下位類の「類で種」に関連づけられる。

⁹ 例えば empty の「入れ物を空にする」の意義と「中身を空ける」の意義は空間

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

		〔図地反転〕 ⁹ に関連づけられる。前者は単に牛の乳房の〈入れ物〉の対象に力を加えることを意味する。これに対して、後者は手拭いの〈入れ物〉を対象にして、その結果に焦点をずらして、入れ物を強く圧迫して〈中身〉を押し出すことを意味するのである。一方、「釘をうつ」と「槌をうつ」は「釘を槌でうつ」から派生したもので、どこに焦点を当てるかによって、それぞれプロセスの対象とプロセスの道具を意味し、広義的に時間的なトニミーの下位類の〔図地反転〕に関連づけられる。「魚を焼く」と「パンを焼く」はそれぞれプロセスの対象とプロセスの結果を意味し、同じく広義的に時間的なメトニミーの下位類の〔図地反転〕に関連づけられる。
⑪	時空間転用隠喩	「眠っている間に、疲れが取れる」の「間」は空間から時間への比喩が行われ、メタファーの下位類の〔特色類似〕に関連付けられる。
⑫	拡大義・縮小義の並存	「瀬戸物」は〈元の瀬戸市周辺で製造した陶器〉から〈陶磁器一般〉へと意義展開される。「鳥」は〈鳥一般〉とそれから派生した〈鶏〉の意味を並存させる。前者はシネクドキの下位類の〈種で類〉、後者はシネクドキの下位類の〈類で種〉に関連づけられる。
⑬	語形省略による場面的多義	「石」は医療現場の「結石」、宝石店の「宝石」と刃物を研ぐ「砥石」は語用論的にメタファーの下位類の〔形態類似〕に関連付けられる。一方、「事務」は「事務部」、「消防」は「消防署・消防車・消防隊」は同じく空間的なメトニミーの下位類の〔部分で全体〕に関連づけられる。

上述のような国広説の多義語の 13 種類の型は、メタファー、メトニミーとシネクドキの 3 種類にまとめることができる。

メタファー：①心的視点の位置⑤比喩的転用⑧時空間推義⑨推論的派生義⑪時空間転用

メトニミー：②アスペクト多義③焦点化④具象化転用⑦換喩⑩意味格多義

メタファー／メトニミー：⑬語形省略による場面的多義

シネクドキ：⑥提喩⑫拡大義・縮小義の並存

3. 分析

共時的多義ネットワークは、核心義を起点とする意義展開パターンによって、各意義を明示に関連づけ、個々の意義を大きな意義のまとまりの中で体系的に記述することを目的とする。この目的を達成

的なメトニミーの下位類の〔図地反転〕に関連づけられる。

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

するためには、上述のメタファーかメトニミーかシネクドキかのいずれかの「意義の認定」とその下位類の「意義関係の明示」がどうしても必要だが、その前提となる「核心義の設定」がいつそう重要な課題である。つまり、核心義なしには、多義ネットワークの記述はあり得ないと言っても過言ではない。核心義は従来①原義ないしそれに近い古義か②使用頻度が一番高い意義かのいずれかの基準によって決まっていたが、①原義ないしそれに近い古義に関しては、例えば、water は「波」が原義で、水があるために、波が立つことから「水」の意味を派生させた。こうした通時的原義ないし古義は共時的な多義ネットワーク作成に相応しくないのが自ずから分かる。②使用頻度が一番高い意義はかならずしも核心義と一致するわけではない。実際、派生的・比喩的な意義の方が使用頻度が一番高い例もよく見られる。しかし、派生的・比喩的な意義は、あくまでも多義ネットワークの起点とする核心義に関連づけられるべきである。

一方、認知言語学ではどの意義を核心義ないし第一義をすべきかに関しては学者の意見が分かれるところであることもまた否めない。例えば、Andrea と Evans (2003) は、①文献的証拠のある最も古い意味、②意味ネットワークにおける優勢、③複合語の中での使用、④他の空間辞との関係、⑤文法的予測を基準としてあげている。また、瀬戸 (2007) は核心義の基準として①文字通りの意義、②関連づけの他の意義を理解する前提となる、③具象性が高い、④認知されやすい、⑤用法上の制約を受けにくい、⑥想起されやすい、⑦意義展開の起点となることが最も多い、⑧言語習得の早い段階で獲得される、⑨使用頻度が高いことが多い、の九つをあげている。

典型的な核心義は上述の特性をすべてではなく、数多く満たせばいいというのが認知言語学では通説となっている。もちろんこの判断は先験的には決まらず、認知言語学のプロタイプ理論に当てはまり、しかも多くの実例を分析することによって得られる適切な妥当性検証ができるものと言える。

本稿では多義ネットワークを記述する上で、「核心義の設定」、「意

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

義の認定」とその下位類の「意義関係の明示」の三つの原則を立てることにした。『新明解国語辞典』と『現代漢語規範詞典』に出る日中同形語＜苗＞＜節＞＜根＞＜土＞＜木＞＜材＞＜線＞などの植物表現を中心に、核心義からの様々な意義がどのような経路を経て展開されるかを分かりやすく鳥瞰的に説明する多義ネットワークの作成を試みる。

手順として、第一に日中両語の多義語の各意義を列挙し、ゼロを記号とする核心義を設定することによって、各節の表Ⅰで日中両語の各意義記述を描き、第二にメタファー、メトニミーとシネクドキに基づいて多義語の各意義を認定することによって、表Ⅱで日中両語の各意義記述を融合した形で描き、第三にメタファーかメトニミーかシネクドキかのいずれかの下位類によって各意義が展開される意義関係を明示したうえで、表Ⅲの日中同形語の多義ネットワークを作成する。『新明解国語辞典』と『現代漢語規範詞典』に出る日中同形語、＜苗＞＜節＞を例に取り上げ、順次、以下説明する。

3.1＜苗＞

例1＜苗＞に関しては、日本語の多義語の各語義では①芽・苗、②子孫・後継者、③食材にする茎や葉、④兆候、⑤〈鉦〉露頭、⑥稚魚や家畜の子、⑦苗に似た形のもの、⑧ワクチンなどがあげられるのに対して、中国語の多義語の各語義では①稲などの苗、②接種用の免疫材料、③稚魚や家畜の子、④血すじ・子孫⑤ミャオ（苗）族などが記述されるのが図Ⅰである。

図Ⅰ ＜苗＞の日中両語の意義記述

	日	中
①	苗・芽	稲などの苗
②	子孫・後継者	接種用の免疫材料
③	食材にする茎や葉	稚魚や家畜の子
④	兆候	血すじ・子孫
⑤	〈鉦〉露頭	ミャオ（苗）族

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

⑥	稚魚や家畜の子	
⑦	苗に似た形のもの	
⑧	ワクチン	

上記の特性を数多く備える「稲などの苗や芽」が＜苗＞の典型的な核心義と見なせる。ゼロ記号で示されるこの核心義を起点とする各語義が展開される日中両語に共通した語義としては○核心義に加え、④接種用の免疫材料（ワクチン）、⑤稚魚や家畜の子、⑥血すじ・子孫などの四項目があげられよう。換言すれば、日本語では①食材にする茎や葉、②苗に似た形のもの、③〈鉦〉露頭、⑦兆候のように、中国語では⑧ミャオ（苗）族のように、それぞれ独自の語義項目が立てられる。上述したところをまとめたのが図Ⅱである。

図Ⅱ ＜苗＞日中両語の意義記述の対照

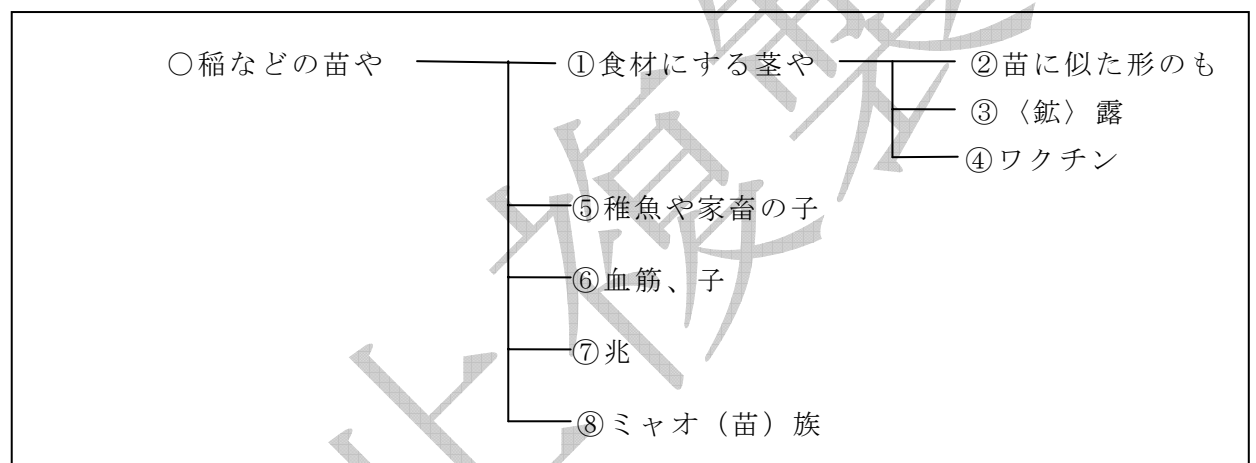
	＜苗＞		
	意義記述	日	中
○	稲などの苗や芽	V	V
①	食材にする茎や葉	V	
②	苗に似た形のもの	V	
③	〈鉦〉露頭	V	
④	接種用の免疫材料（ワクチン）	V	V
⑤	稚魚や家畜の子	V	V
⑥	血すじ、子孫（子孫，後継者）	V	V
⑦	兆候	V	
⑧	ミャオ（苗）族		V

核心義「稲などの苗や芽」と①「食材にする茎や葉」はメタファーの下位類の「形態類似」に関連づけられる。①「食材にする茎や葉」と②「苗に似た形のもの」はメタファーの下位類の「形態類似」に関連づけられる。①「食材にする茎や葉」と③「〈鉦〉露頭」ないし①「食材にする茎や葉」と④「ワクチン」はいずれもメタファー

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

の下位類の「機能類似」に関連づけられる。一方、核心義と⑤「稚魚や家畜の子」ないし核心義と⑥「血すじ・子孫」はいずれもメタファーの下位類の「特色類似」に関連づけられる。核心義と〈「何かが起こる前触れ」を意味する⑦「兆候」はメタファーの下位類の「機能類似」に関連づけられる。核心義と⑧ミャオ（苗）族はメタファーの下位類の「特色類似」に関連づけられる。上述のところをまとめるのが日中同形語＜苗＞の多義ネットワーク図Ⅲである。

図Ⅲ 日中同形語＜苗＞の多義ネットワーク



3.2＜節＞

例2＜節＞に関しては、日本語の多義語の各語義では①節、②竹、枝または骨などの節。また、ものの結合している部分、③気候の割目、④時期、⑤物事の区切り目。また、区切られた部分、⑥志をまもること。みさお、⑦ほどよくすること。ひかえめ。ほどあい、⑧節点に同じ、⑨生物分類上の一階級。属と種との中間で、種をまとめるためにおく、⑩船の速度の単位「ノット」の当て字などがあげられるのに対して、中国語の多義語の各語義では①植物の節、②動物の関節、③節季、④祝日、⑤物事の区切り、⑥一部分を切り取る、抜き出す、⑦[量]区切れるもの、⑧制限する、⑨儉約する、⑩礼節、⑪節操、⑫曲のリズムを取る打楽器、⑬リズム、⑭身分を証明するための割り符などが記述されるのが図Ⅰである。

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

図 I <節>の日中両語の意義記述

	日	中
①	節	植物の節
②	竹、枝または骨などの節。また、ものの結合している部分。	動物の関節
③	気候の割目	節季
④	時期	祝日
⑤	物事の区切り目。また、区切られた部分。	物事の区切り
⑥	志をまもること。みさお。	一部分を切り取る、抜き出す。
⑦	ほどよくすること。ひかえめ。ほどあい。	[量]区切れるもの。
⑧	節点に同じ。	制限する
⑨	生物分類上の一階級。属と種との中間で、種をまとめるためにおく。	儉約する
⑩	船の速度の単位「ノット」の当て字。	礼節
⑪		節操
⑫		曲のリズムを取る打楽器
⑬		リズム
⑭		身分を証明するための割り符

上記の特性を数多く備える「節」が<節>の典型的な核心義と見なせる。ゼロ記号で示されるこの核心義を起点とする各語義が展開される日中両語に共通した語義としては○核心義のほか、①竹、枝または骨などの節。また、ものの結合している部分。(植物の節、動物の関節)、②節点に同じ、③物事の区切り目([量]区切れるもの)、⑤気候の割目(節季)、⑥時期⑧ほどよくすること。ひかえめ。ほどあい。(制限する、儉約する)、⑨志をまもること。みさお。(節操)、

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

⑩礼節などの八項目があげられよう。換言すれば、日本語では⑬生物分類上の一階級。属と種との中間で、種をまとめるためにおく、⑭身分を証明するための割り符、⑮船の速度の単位「ノット」の当て字のように、中国語では④一部分を切り取る、抜き出す、⑦祝日、⑪曲のリズムを取る打楽器、⑫リズムのように、それぞれ独自の語義項目が立てられる。上述したところを図Ⅱにまとめた。

図Ⅱ <節> 日中両語の意義記述対照

<節>			
意義記述		日	中
○	節	V	V
①	竹、枝または骨などの節。また、ものの結合している部分。(植物の節、動物の関節)	V	V
②	節点に同じ	V	V
③	物事の区切り目 ([量]区切れるもの)	V	V
④	一部分を切り取る、抜き出す		V
⑤	気候の割目 (節季)	V	V
⑥	時期	V	V
⑦	祝日		V
⑧	ほどよくすること。ひかえめ。ほどあい。(制限する、儉約する)	V	V
⑨	志をまもること。みさお。(節操)	V	V
⑩	礼節	V	V
⑪	曲のリズムを取る打楽器		V
⑫	リズム		V
⑬	生物分類上の一階級。属と種との中間で、種をまとめるためにおく	V	
⑭	身分を証明するための割り符	V	
⑮	船の速度の単位「ノット」の当て字	V	

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

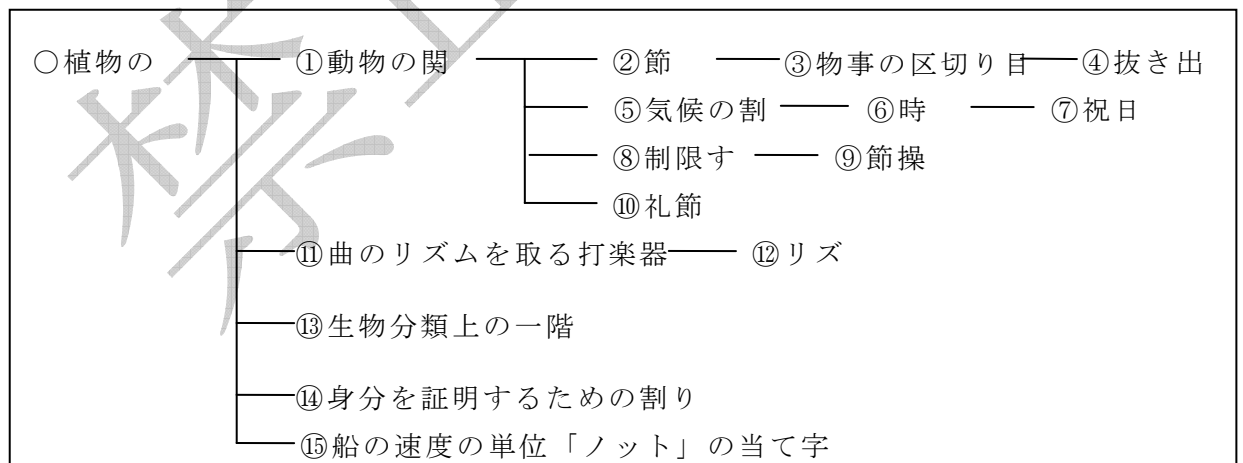
核心義「節」と①「動物の関節」はメタファーの下位類の〔形態類似〕に関連づけられる。①「動物の関節」と②「節点」はメタファーの下位類の〔特色類似〕に関連づけられる。②「節点」と③「物事の区切り目」はメタファーの下位類の〔機能類似〕に関連づけられる。③「物事の区切り目」と④「抜き出す」は時間的なメトニミーの下位類の〔対象でプロセス〕に関連づけられる。

①「動物の関節」と⑤「気候の割目」はメタファーの下位類の〔機能類似〕に関連づけられる。⑤「気候の割目」と⑥「時期」はメタファーの下位類の〔特色類似〕に関連づけられる。⑥「時期」と⑦「祝日」はメタファーの下位類の〔特色類似〕に関連づけられる。

①「動物の関節」「動物の関節」と⑧「制限する」は時間的なメトニミーの下位類の〔場所でプロセス〕に関連づけられる。⑧「制限する」と⑨「節操」は時間的なメトニミーの下位類の〔プロセスで結果〕に関連づけられる。①「動物の関節」と⑩「礼節」はメタファーの下位類の〔機能類似〕に関連づけられる。

核心義と⑪「曲のリズムを取る打楽器」はメタファーの下位類の〔機能類似〕に関連づけられる。⑪「曲のリズムを取る打楽器」と

図Ⅲ 日中同形語<節>の多義ネットワーク



⑫「リズム」は時間的なメトニミーの下位類の〔共起〕に関連づけられる。核心義と⑬「生物分類上の一階級」はメタファーの下位類

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

の「機能類似」に関連づけられる。核心義と⑭「身分を証明するための割り符」はメタファーの下位類の「機能類似」に関連づけられる。核心義と⑮「船の速度の単位「ノット」の当て字」は同じくメタファーの下位類の「機能類似」に関連づけられる。上述の内容をまとめたのが日中同形語＜節＞の多義ネットワーク図Ⅲである。

3.3 日中同形語の共時的な多義ネットワーク

以下、例3＜根＞、例4＜土＞、例5＜木＞、例6＜材＞と例7＜線＞の共時的な多義ネットワークは紙幅の制限で図Ⅰ、図Ⅱ、図Ⅲを示すだけで、記述を省くことにした。

例3：＜根＞

図Ⅰ ＜根＞の日中両語の意義記述

	日	中
①	植物の根	植物の根
②	地に生えて意を表す語	付け根、根元
③	その物を支えるために表から 見えない所に固まり広がって いる物	根源
④	根本原因	子孫
⑤	根源	根拠、よりどころ
⑥	根拠、よりどころ	根本的に、徹底的に
⑦	暗礁	＜数＞ルート、根、
⑧	本来の性質、生まれつき	方程式の解
⑨	鋤（日本語）	＜化＞根基
⑩		細長いもの（漢語）

図Ⅱ ＜根＞日中両語の意義記述対照

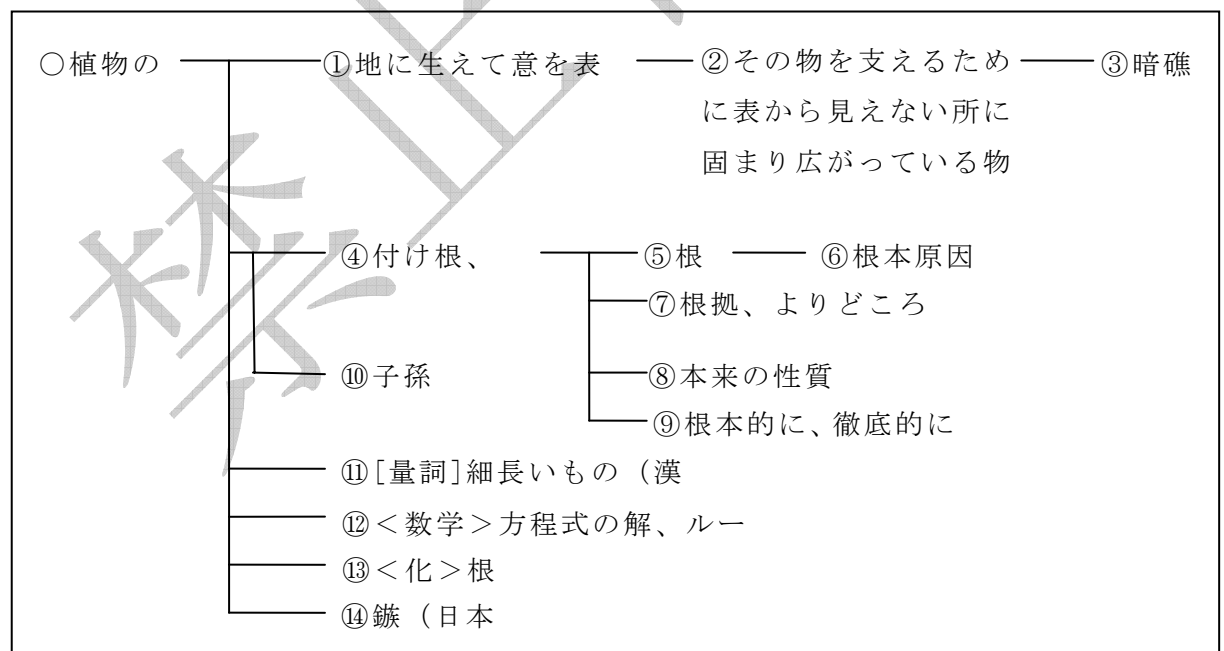
	＜根＞		
	意義記述	日	中
○	植物の根	V	V
①	地に生えて意を表す語	V	

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

②	その物を支えるために表から見えない所に固まり広がっている物	V	
③	暗礁	V	
④	付け根、根元		V
⑤	根源	V	V
⑥	根本原因	V	
⑦	根拠、よりどころ	V	V
⑧	本来の性質、生まれつき	V	
⑨	根本的に、徹底的に		V
⑩	子孫		V
⑪	細長いもの（漢語）		V
⑫	<数>ルート、根、方程式の解		V
⑬	<化>根基		V
⑭	鋤（日本語）	V	

図Ⅲ 日中同形語<根>の多義ネットワーク



『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

例 4 : <土>

図 I <土>の日中両語の意義記述

	日	中
①	土、泥	土壤
②	土地	地球の表面
③	故郷	鳥の子紙の一種
④	当地の、地方の	値打ちのないもの、顔形の劣ったもののたとえ。
⑤	野暮ったい、古くさい	地下(じげ)のこと。
⑥	民間在来の	あかぬけしていないこと。また、いなか者。
⑦	粗製のアヘン	陰陽道で、土公神のいる方角の土木工事を忌むこと。

図 II <土>日中両語の意義記述対照

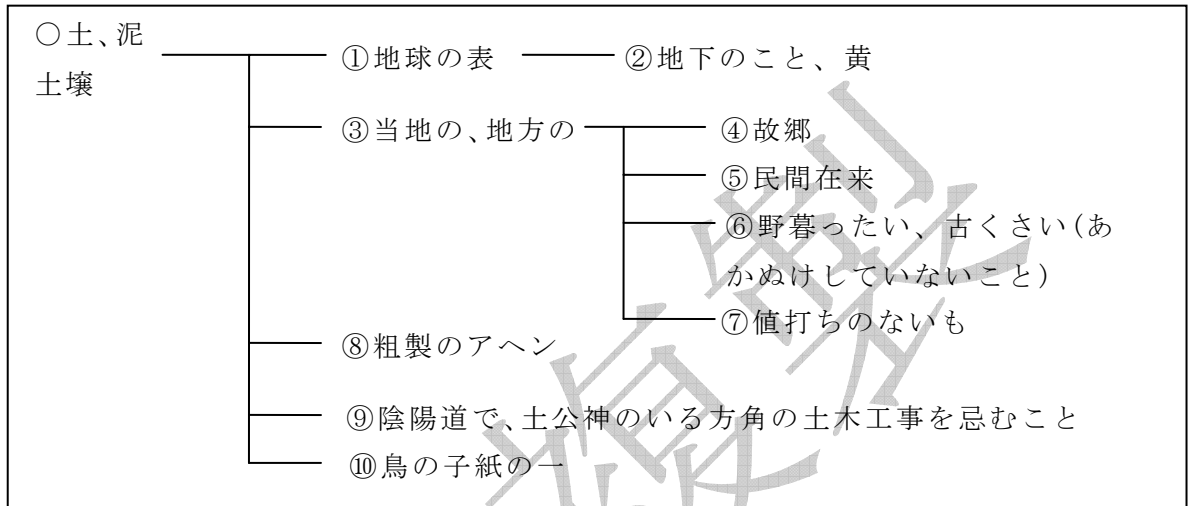
	<土>		
	意義記述	日	中
○	土、泥（土壤）	V	V
①	土地（地球の表面）	V	V
②	地下(じげ)のこと。		V
③	当地の、地方の	V	V
④	故郷	V	
⑤	民間在来の	V	
⑥	野暮ったい、古くさい（あかぬけしていないこと）	V	V
⑦	値打ちのないもの、顔形の劣ったもののたとえ。	V	V
⑧	粗製のアヘン	V	
⑨	陰陽道で、土公神のいる方角の土木工事を忌		V

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

	むこと。		
⑩	鳥の子紙の一種		V

図Ⅲ 日中同形語＜土＞の多義ネットワーク



例 5 : <木>

図Ⅰ <木>の日中両語の意義記述

	日	中
①	樹木	樹木
②	林材	木材
③		棺桶
④		質朴である

図Ⅱ <木>日中両語の意義記述対照

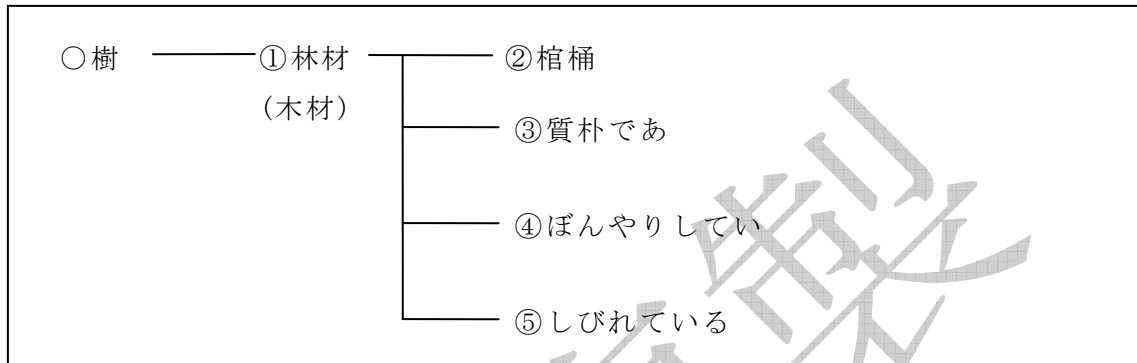
	<木>			
	意義記述	比喻類型	日	中
○	樹木	本義	V	V
①	林材 (木材)		V	V
②	棺桶			V
③	質朴である	換喩		V

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

④	ぼんやりしている			V
⑤	しびれている			V

図Ⅲ 日中同形語<木>の多義ネットワーク



例 6 : <材>

図Ⅰ <材>の日中両語の意義記述

	日	中
①	元のものゝ質をゑゑるゝゑな加工を受けずゝ使ゐれる、すぐ使ゑる状態にある木の部分。何かの主材料	木材
②	材質	原料
③	人材	資料
④		人の素質、資質
⑤		人材
⑥		棺桶

図Ⅱ <材>日中両語の意義記述対照

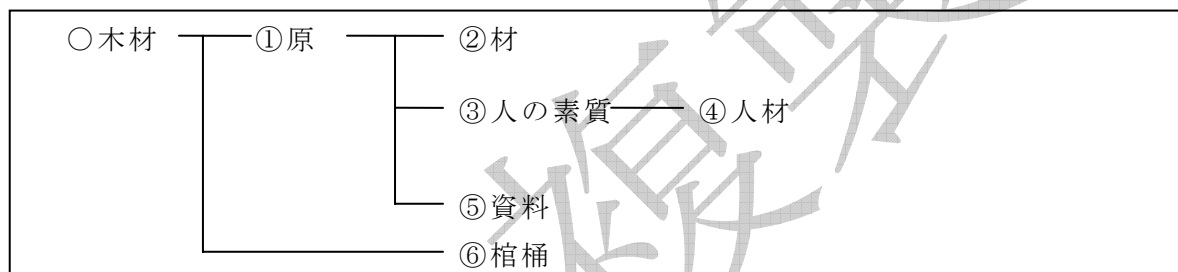
	<材>		日	中
	意義記述			
○	木材		V	V
①	元のものゝ質をゑゑるゝゑな加工を受けず		V	V

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

	に使われる、すぐ使える状態にある木の部分。何かの主材料(原料)			
②	材質		V	
③	人の素質、資質			V
④	人材		V	V
⑤	資料			V
⑥	棺桶			V

図Ⅲ 日中同形語<材>の多義ネットワーク



例 7 : <線>

図Ⅰ <線>の日中両語の意義記述

	日	中
①	細く延びたもの	綿．毛．絹．麻などの糸
②	糸のように細く連なったもの	糸のように細長いもの
③	すじ	経路，ルート。
④	幾何学で取り扱う対象の一	手がかり，手引き者。
⑤	そこから先へ越えてはならない所	線
①	境目	境界線
②	水準	ぎりぎりの限界，分かれ目。
③	物の輪郭	現役，または非現役。
④	物や作品を支える精神的力の強弱	(抽象的な事物に用い) 一筋，一縷。

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

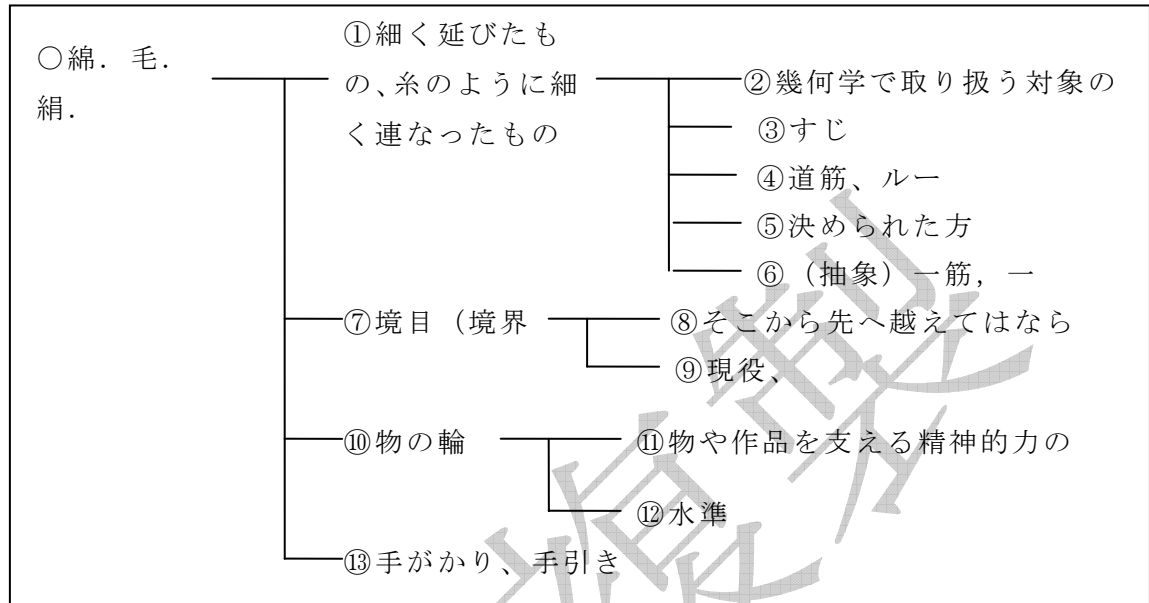
PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

⑤	物が動く、または物と物とをつなぐ、道筋。	
⑥	特に、交通機関の経路	
⑦	決められた方針	

図Ⅱ <線> 日中両語の意義記述対照

<線>			
	意義記述	日	中
○	綿・毛・絹・麻などの糸	V	V
①	細く延びたもの/糸のように細く連なったもの	V	V
②	幾何学で取り扱う対象の一（線）	V	V
③	すじ	V	
⑦	物が動く、または物と物とをつなぐ道筋。特に、交通機関の経路（経路，ルート）。	V	V
⑧	決められた方針	V	
⑨	（抽象的な事物に用い）一筋，一縷。		V
⑩	境目（境界線、ぎりぎりの限界，分かれ目。）	V	V
⑪	そこから先へ越えてはならない所	V	V
⑫	現役、または非現役。		V
⑬	物の輪郭	V	
⑭	物や作品を支える精神的力の強弱	V	
⑮	水準	V	
⑯	手がかり、手引き者。		V

図Ⅲ 日中同形語＜線＞の多義ネットワーク



4. 結語

本稿は＜苗＞＜節＞＜根＞＜土＞＜木＞＜材＞＜線＞の植物表現を例に、日中同形語の共時的な多義ネットワークを考察し、その方法論の試案を提起した。当初の目的が十分達成られたかと思う。

共時的な多義ネットワークを記述するにあたって、明確な基準に基づいて、「核心義の設定」、「意義の認定」とその下位類の「意義関係の明示」を提示しなければならない。「核心義の設定」に関しては認知言語学のプロタイプ理論に則った基準を立てたのに対して、「意義の認定」に関しては核心義を起点とするメタファーかメトニミーかシネクドキかのいずれかの基準を呈した。にもかかわらず、「意義関係の明示」に関しては必要でかつ十分な下位類の意義展開パタンの探求は不十分ながら、その一つの試みだった。これはどうしても避けて通れない課題として今後の研究にまつこととしたい。

参考文献

Aronoff, Mark (1994) *Morphology by Itself: Stems and Inflectional*

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

- Classes*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press.
- Bartsch, Renate (1984) *The Structure of Word Meaning: Polysemy, Metaphor, Metonymy*. In Fred Landman & Frank Veltman (Eds.) *Varieties of Formal Semantics*, 25-54. Dordrecht: Foris Publications.
- 陈小英 (2006) 「“飞” 与 “飛ぶ” 的语义扩展机制异同的动因分析」《汉日对比研究 7》, 学风出版
- Douglas, Rev. Cartairs (1873) *Chinese-English Dictionary of the Vernacular or Spoken Language of Amoy with the Principal Variations of the Chang-chew and Chin-chew Dialect*. London: Trubner Co.
- Fillmore, Charles J. (1986) *Pragmatically Controlled Zero Anaphora. Proceedings of the Twelfth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*, 95-197.
- Goldberg, Adele E. (1995) *Constructions: a construction grammar approach to argument structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- 黄居仁主編 (2005) 《中文的意義與詞義第二版》中央研究院
- Hung, Hanchun (1998) *Lexical Polysemy and Sense Extension in Verbs of Movement in Taiwanese Southern Min* 《台灣閩南語移動動詞的詞彙多異性與語意延伸》. M. A. Thesis, Taiwan: National Tsing Hua University.
- Hung, Sucheng (1995) *A Study of the Taiwanese Preposition KA and its Corresponding Mandarin Prepositions*. M. A. thesis, Taiwan: National Tsing Hua University.
- 池田悟・宮崎正弘・白井諭・横尾昭男・中岩浩巳・小倉健太郎・大山芳史・林良彦 (1997) 『日本語語彙大系全 5 卷』岩波書店
- Jackendoff, Ray S. (1990) *Semantic structures*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press.
- 情報処理振興事業協会 (1987) 『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL (Basic Verbs) 辞書編と解説編』
- 情報処理振興事業協会 (1990) 『計算機日本語原形容詞辞書 IPAL (Basic Adjectives) 辞書編と解説編』
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論－言語と認知の接点』くろしお出版
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『言語研究』15

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

- 金田一春彦・池田弥三郎編（1998）『国語大辞典』学習研究社
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things: What categories Reveal About the Mind*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lamb, Sydney M. (1964) *The Semantic Approach to Structural Semantics*. *American Anthropologist* 66, 57-78.
- Levin, Beth and Hovav, Malka Rappaport (1995) *Unaccusativity: at the Syntax-Lexical Semantics Interface*. Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.
- 国立国語研究所編（1964）『分類語彙表』秀英出版社
- 国立国語研究所編（2004）『分類語彙表一増補改訂版』秀英出版社
- 国際交流基金（2002）『日本語能力出題基準一改訂版』凡人社
- 国広哲弥（2006）『日本語の多義動詞理想の国語辞典 2』大修館
- Lyons, John (1968) *Introduction to Theoretical Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 松村明・山口明穂・和田利政編（1987）『国語辞典』旺文社
- Matthews, P. H. (1991) *Morphology* (2nd edition). Cambridge: Cambridge University Press.
- Michotte, A. (1954) *La Perception de la Causalite* (2nd edition). Louvain: Publications Universitaires de Louvain.
- 孟琮・郑怀德・孟庆海・蔡文兰編（1987）《动词用法词典》上海辞书出版社出版
- 粕山洋介（2001）「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」『認知言語学論考』、No.1、ひつじ書房
- 粕山洋介・深田智（2003）「第3章 意味の拡張」「第4章 多義性」、松本曜編『認知意味論（第3巻）』大修館
- 森田良行（1994）『動詞の意味論的文法研究』大修館
- 村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 中村芳久編（2004）『認知文法論Ⅱ（第5巻）』大修館
- Nida, Eugene A. and Taber, Charles R. (1972) *Semantic structures*. In M. Estellie Smith (Ed.) *Studies in linguistics in honor of George L. Trager*, 122-141. The Hague: Mouton.
- 新村出編（1998）『広辞苑』第5版、岩波書房
- Rosch, Eleanor H. (1973) *Natural categories*. *Cognitive Psychology* 4, 328-350.

『台灣日本語文學報 22 號』PDF版

PDF 版は、広く業績を共有するためにインターネットでの検索と個人の閲覧の便に供する目的で公開しています。インターネット、印刷物、その他いかなる形でも、許可なく転載・複製・印刷・刊行・公開することを禁止します。

- 阮智高・郭忠新主編（2000）《現代汉语大辞典》世紀出版集團汉语大
字典出版社
- 商務印書館辭書研究中心編（2000）《應用汉语詞典》商務印書館
- 佐藤信夫（1978）『レトリック感覺』講談社
- 瀬戸賢一（1997）『認識のレトリック』海鳴社
- 瀬戸賢一（2007）『英語多義ネットワーク辞典』小学館
- 柴田武・山田進編（2002）『類語大辞典』講談社
- 高橋太郎（2002）『動詞九章』ひつじ書房
- 田島毓堂（1999）『比較語彙研究序説』笠間書院
- Taylor, J.R. (1995) *Linguistic categorization: Prototypes in Linguistic theory*. Second edition. New York: Oxford University Press
- Taler, Andres, and Vyvyan Evans. *The Semantics of English Preposition*. Cambridge University Press. (国広哲弥監訳 2005『英語前置詞の意味論』研究社)
- 趙順文（2004）「『新明解国語辞典第五版』に出る動詞の基本文型の記述について」『日本語教育シンポジウム論文予稿集』日本・日本語教育学会（2004-0806～0807）
- 趙順文（2006）「以認知為基礎的日語詞典多義詞的釋義排序——以花為例——」『台大日本語文研究 12:153-168』台灣大學
- 山梨正明（2000）『認知言語学原理』くろしお出版
- 山梨正明（2001）「ことばの科学の認知言語学的シナリオ」『認知言語学論考』、No.1、ひつじ書房
- 于 康（2004）「论元角色和论元位置与义项的相互制约关系——从汉语对比角度出发——」《现代中国语研究第6期》朋友书店
- 于 康（2005）「语义扩展模式与汉日对比研究」《语言科学》第4卷第1期，科学出版社
- 袁毓林（2004）「论元结构和句法结构互动的动因，机制和条件——表达精细化对动词配价和句法构造的影响」《语文研究》第4期
- Zhao, Yuenren (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press, Ltd.

編集委員會

召集人 曾秋桂

副召集人 陳淑娟 吉田妙子

編集委員 賴錦雀 孫宥華 彭春陽 邱若山 林長河 林雪星

邱榮金 黃翠娥 羅曉勤 賴雪莊

執行編輯 落合由治 小林由紀

助理編集 葉 凌

外部審査の結果、全投稿 27 本中 18 本が掲載され、今号の掲載率は 66.7%である

台灣日本語文學報 22

出版者：台灣日本語文學會

理事長 曾秋桂

會 址：25137 台北縣淡水鎮英專路 151 號

淡江大學日本語文學系

傳 真：(+886) 02-2620-9915

網 站：http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/

出版日：2007 年 12 月 31 日

ISSN 1727-2262
